



# 浄瑠璃を歌う、

# 文楽を語る



# 『曾根崎心中』の世界

日本には「思想」がないという（中江兆民）。「本居の徒は考古家に過ぎず、仁斎・徂徠は経学者たるのみ」。そんな兆民が、明治二〇年に大阪へ移り住み、二世越路大夫らの声に惑溺するなか、愛弟子の幸徳らへ受け継がれた「思想」は形成される。「寺子屋」や「熊谷陣屋」のワンパターンは、大夫と三味線の声音の輝きを際立たせるための仕掛けである。浄瑠璃文楽のメロディアスな歌と語りの世界に、日本近代の「思想」が生成する原点をかいま見る、うたげの会 第八回企画。

出演 — 豊竹睦大夫、豊澤龍爾

司会 — 兵藤裕己 出し物 — 『曾根崎心中』生玉の段、ほか

日時 — 二〇一三年 十二月 一日（日曜日）

午後 六時 開場 六時半 開演

席料 — 全席 三〇〇〇円 《予約・問い合わせ [ufig0311@gmail.com](mailto:ufig0311@gmail.com)》

チャレンジデザイン — 内田圭

チラシ写真撮影 — 三宅展介

協力 — 人形浄瑠璃文楽座むつみ会

3・11以後の歌と語りを考える「うたげの会」

【発起人】川田順造 藤井貞和 佐々木幹郎

山本ひろ子 赤坂憲雄 梶口良澄 兵藤裕己

《うたげの会・次回予告》2月11日 6時半〜  
フォーラム「3・11以後の歌と語りを考える」

